

ノーベル賞120年！

そのだ ひさこ

コロナ禍いまだ・・・の昨今であるが、テレビでノーベル賞関連のニュースが続いている。ノーベル賞はダイナマイトの発明者であるアルフレッド・ノーベルの遺言により寄付された遺産を基金とし、1901年に始められた世界的な賞である。今年でちょうど120年目になる。ダイナマイトを発明したノーベルは、それが岩石の破砕などに巨大な力を発揮すると同時に、人類を殺傷する道具にもなりうることに心を痛めたという。ノーベル賞は物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、経済学賞、平和賞の6分野にわたって授与される。今年は、二つの受賞が心にとまった。

一つは、二人の女性がノーベル化学賞を受賞したことである。生命の設計図である遺伝子を効率的に改変する「ゲノム編集」を開発したアメリカとフランスの二人の女性研究者である。医療や農作物の改良など生命科学全般で広く応用できる画期的な手法だとして受賞となった。さまざまな難病の治療法や、資源が限られた地球というお星さまの上で生きのびるための食料問題など、幅広く人類の未来のために役立つ画期的な研究が評価された結果である。

ちなみに、ぼおつと詩など書いているような私は化学の分野など無知そのものであるが、「ゲノム」とは遺伝子と染色体から合成された言葉で、すべての遺伝子情報のことをいうものであるようだ。人は父親由来のゲノムと母親由来のゲノムの二組のゲノムを持っているということらしい。両親からもらった自分の二組のゲノム情報など、興味津々でのぞき見したいほどである。しかし一方で、自分の意志に関係なく与えられ、決定している遺伝子の情報は恐ろしくも感じる。そう思いつつ、日本では、政治でも教育・研究分野でも、あらゆる分野で女性の進出はたいへん遅れていることが「ちらっ！」と頭をよぎる。

二つめは、ノーベル平和賞が「国連世界食糧計画」(WFP)に送られたことである。飢餓のない世界をめざして活動する国連の食料支援機関である。毎年、約80カ国8000万人余に支援をし、飢餓とたたかっているという。ナイジェリア、南スーダン、シリアなどの緊急支援はもちろん、昨今は新型コロナウイルスに関連した緊急支援なども行っている。

物理学の面で、身体を通りぬける骨などを写しだすことのできる「X線」を発見し物理学賞を受賞したドイツのレントゲンさんの名前はよく知られている。人間の身体を細菌やウイルスからまもる「免疫」の仕組みの解明や青カビからのペニシリン発見など、私たちはノーベル賞受賞者たちの発見や研究の成果によって命を救われたり、恩恵にあずかったりして生きている。今年は、新型コロナウイルス感染や自然災害に襲われた一年だった。これらの問題解決には一人ひとりの生活の見つめ直しは不可欠だが、一刻でも早いワクチンの完成が待たれて止まない今日である。

●問い合わせ先 教育政策課 人権・同和教育担当